

2021 年 11 月 7 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒292 番（聖 475）

『くすしき憩いは』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 13:11~13 節（MT 姉）

『なぜなら、罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれるからです。それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。』

礼拝讃美歌⇒119 番（旧 210 番）（MT 姉）

『都の外なる』

聖書⇒マルコによる福音書 16:1~8:章（OH 兄）

『安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるのでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座しているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。』

礼拝讃美歌⇒165 番（旧 52 番）（OH 兄）

『主は墓より』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 23:33~34a:節（NH 兄）

『「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は

右に一人は左に、十字架につけた。[そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」』

聖書⇒ルカによる福音書 24:1~6a:節 (NH 兄)

『そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。』

聖書⇒ルカによる福音書 22:19~20:節 (NH 兄)

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲) (NH 兄)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒サムエル記下 12:13a:節 (ES 姉)

『ダビデはナタンに言った。「わたしは主に罪を犯した。』

聖書⇒詩編 51:3-6、12-14、17 節 (ES 姉)

『神よ、わたしを憐れんでください／御慈悲しみをもって。

深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。

わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。

あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。

あなたに、あなたのみになわたしは罪を犯し／御目に悪事と見られることをしました。

あなたの言われることは正しく／あなたの裁きに誤りはありません。

神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。

御前からわたしを退けず／あなたの聖なる霊を取り上げないでください。

御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／自由の霊によって支えてください。

主よ、わたしの唇を開いてください／この口はあなたの賛美を歌います。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 5:22~23 節 (ES 姉)

『これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。』

聖書⇒詩編 121 編 (NH 兄)

『【都に上る歌。】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。

わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。

どうか、主があなたを助けて／足がよろめかないようにし／まどろむことなく見守ってくださるように。

見よ、イスラエルを見守る方は／まどろむことなく、眠ることもない。

主はあなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。

主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。

あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。』

礼拝讃美歌⇒481 番 (聖 232 番)

『ああ嬉しわが身も』

《建徳要旨》